



島田市の教育

「令和5年度全国学力・学習状況調査」から見える島田市の子供

1 調査の概要

- ◇目的
 - ・児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、授業改善を図る。
 - ・本調査の結果を子供への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇実施日 令和5年4月18日(火)
- ◇実施対象 島田市内全ての小学校6年生と中学校3年生
- ◇調査内容
 - ・教科調査(小学校→国語・算数)(中学校→国語・数学・英語)
 - ・生活習慣や学習環境等に関する質問紙

2 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査結果

＜調査結果(平均正答率)を領域別にまとめた。＞

＜平均正答率＞

全設問における正答数の割合を算出した値(個人の正答率)を足し合わせ、子供の人数で割った値

＜記号の見方＞ 全国(公立)平均正答率と比べて

- ◎: +3ポイント以上
- : +1~+3ポイントまで
- : 概ね平均並
- △: -1~-3ポイントまで
- ▲: -3ポイント以下



国語

小学校は全国を上回る正答率の領域もあったが、全体として全国をやや下回る正答率となった。中学校は概ね全国の平均並みの正答率となった。

学校種	全体	領域別			
		話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	・言葉の特徴や使い方に関する事項(小・中) ・情報の扱い方に関する事項(小・中) ・我が国の言語文化に関する事項(中)
小学校	△	△	○	□	△
中学校	□	○	△	□	□

小学校 ☆成果 ★課題

- ☆図表やグラフなどを用いて、考えが伝わるように書き表し方を工夫する力が付いている。
- ☆情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う力が付いている。
- ★目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと意図を比較しながら、自分の考えをまとめることに課題がある。
- ★日常よく使われる敬語の理解に課題がある。

中学校 ☆成果 ★課題

- ☆目的や場面に応じて質問をする内容を検討する力が付いている。
- ☆文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする力が付いている。
- ★観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることに課題がある。
- ★具体と抽象など、情報と情報との関係を理解することに課題がある。

算数・数学

小学校は全国をやや下回る正答率となった。中学校は全国を上回る正答率の領域もあったが、全体としては全国をやや下回る正答率となった。

学校種	全体	領域別			
		数と計算	図形	変化と関数	データの活用
小学校	△	△	△	△	△

学校種	全体	領域別			
		数と式	図形	関数	データの活用
中学校	△	△	□	△	○

小学校 ☆成果 ★課題

- ☆一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をする力が付いている。
- ☆二次元の表から、条件に合う数を読み取る力が付いている。
- ★（ ）を用いた式や、加法と乗法の混同した式を場面と関連付けて読み取ることに課題がある。
- ★示された日常生活の場面から、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果が条件に当てはまるかどうかを判断することに課題がある。
- ★高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に大小を判断した理由を説明することに課題がある。
- ★伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさを説明することに課題がある。

中学校 ☆成果 ★課題

- ☆四分位範囲の意味を理解する力が付いている。
- ☆与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る力が付いている。
- ★目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。
- ★反比例や累積度数の意味を理解することに課題がある。
- ★図形の条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って説明することに課題がある。

英語

全国を上回る正答率の領域と下回る正答率の領域があった。全体としては概ね全国の平均並みの正答率となった。

学校種	全体	領域別		
		聞くこと	読むこと	書くこと
中学校	□	△	○	□

中学校 ☆成果 ★課題

- ☆英文を読み、情報を正確に読み取る力が付いている。
- ☆事実や考えが書かれた英文を読む際に、事実と考えを区別して読む力が付いている。
- ☆未来表現（be going to）の肯定文を正確に書くことができる力が付いている。
- ★日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることに課題がある。
- ★社会的な話題について、話し手の最も伝えたい内容（要点）を捉えて聞くことに課題がある。
- ★事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題がある。

(2) 児童・生徒質問紙に関する調査結果からわかること

《よい傾向》

- ☆毎日朝食を食べ、同じくらいの時刻に起き、同じくらいの時間に寝る。
- ☆学校に行くのが楽しいと思う。
- ☆人の役に立つ人間になりたいと思う。
- ☆自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。
- ☆今住んでいる地域の行事に参加している。
- ☆地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。
- ☆5年生（中学校2年生）までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器を多く活用している。
- ☆ICT機器は勉強の役に立つと思う。
- ☆5年生（中学校2年生）までに受けた授業で課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。
- ☆（小学校）学級生活をよりよくするために話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。
- ☆（中学校）学級の生徒と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりしている。

《力を入れたい》

- ★学校が休みの日の勉強時間を増やす。
- ★新聞を読む。
- ★（中学校）将来の夢や目標を持っている。
- ★5年生（中学校2年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表する。
- ★国語の勉強が好きか。
- ★（小学校）国語の回答時間が十分だったか。
- ★（中学校）数学の勉強が好きで、内容がよく分かる。
- ★将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う。
- ★学校の授業以外で英語を使う機会がある。

(3) 今後(継続して)力を入れたいこと

授業について

- ・目標を明確に設定し、子供と共有することで、子供一人一人が課題解決に向けて、主体的に取り組めるようにする。
- ・意図的に対話の活動を設定することで、子供たちが多様な意見から学びを深めることができるようにする。
- ・探究的な学習を重視し、目的や相手に応じて、自分が調べたことや考えたことが伝わるように工夫して表現する活動を意図的に取り入れる。
- ・振り返りの時間を設定し、子供自身が学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を見つめ、次の学習につなげることができるようにする。
- ・ICT機器を活用し、情報活用能力を養い、効率的に学習を進めていくようにする。
- ・デジタル教材を活用し、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解の程度に応じた学びができるようにする。

教育活動全体について

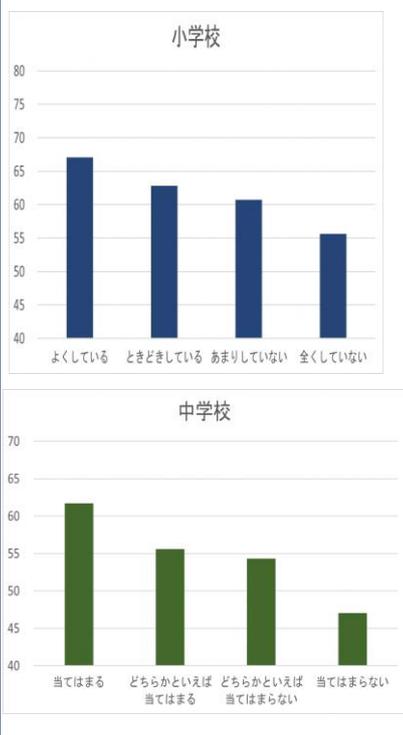
- ・島田市が実践している夢育地育をさらに推進し、地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会を多くしていく。

※各小中学校からも「学力向上へ向けた学校の取組」を、各学校の実態を踏まえて具体的にお知らせする。島田市の子供に、確かな学力が身に付けられるように今後も努力する。

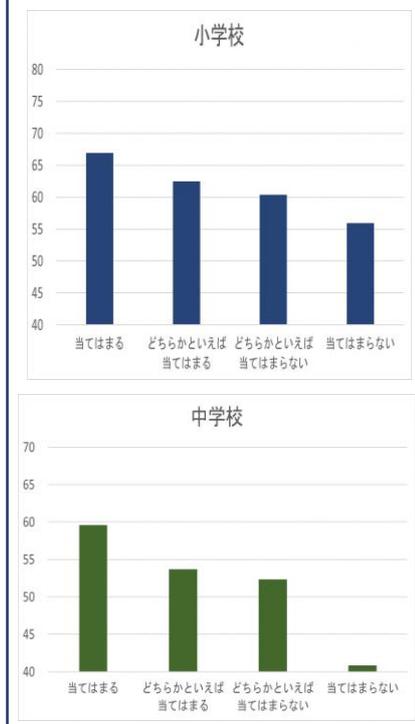
3 保護者のみなさまへ

自分で考えて（計画を立てて）学習を進めていたり、他者との対話を通して考えを深めたりする子供の方が、平均正答率が高くなる傾向が見られます。また、自己有用感（誰かの役に立っている、貢献している等）が平均正答率と関係する傾向が見られます。

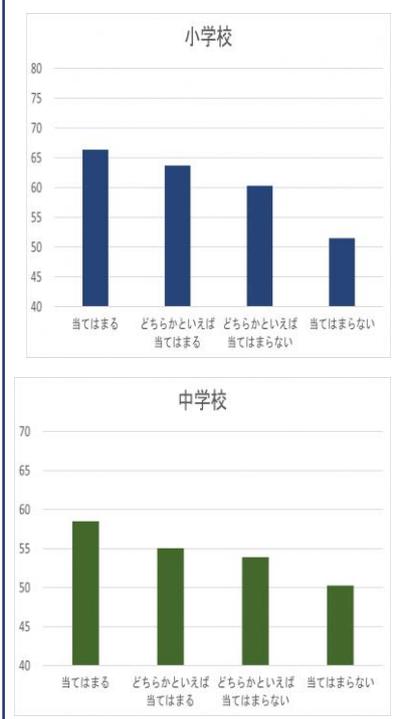
「家で自分で計画を立てて勉強していますか。」平均正答率との関係



「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」平均正答率との関係



「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」平均正答率との関係



- ◇日頃から、子供たちが自分で考え、判断をし、行動していくことができるように、子供の考えを聴いたり、支える声を掛けたりしていきましょう。
- ◇社会の動きに関心を持ったり、様々な考えにふれたりすることができるように、子供と社会の出来事やニュースについて話す機会を設けましょう。
- ◇テレビゲーム・携帯電話・スマホ・コンピューター等の使い方について、御家庭で話し合い、決めたことを守っているか確認をしていきましょう。
- ◇子供の活動を見守りながら「ほめて伸ばす」「頑張りや努力を認めて伸ばす」ことを心掛けて、子供たちを励ましていきましょう。